

## 情報モラル研修 6（1部）

### S N S や掲示板への投稿

情報モラル研修会を始めます。  
テーマは「SNSや掲示板への投稿」です。  
(★)

## 研修のゴール

**ネットの特性を理解し、不適切な投稿が将来まで影響することを知る。**

ネット上では、SNSや掲示板への不適切な投稿が絶えません。ネット上で炎上してしまうと、瞬く間にその情報が拡散・複製され、個人情報も特定されてしまいます。ネットの世界は、大人のルールが適用されているといえます。そこで、情報発信をする子どもたちを守るためには、どのような指導を行えばよいのかを考えるために、『ネットの特性を理解し、不適切な投稿が将来まで影響することを知る。』を研修のゴールとしています。

(★)

## 1. 不適切な投稿（ネット炎上）

ソーシャルメディアを通じた炎上事件の事例

### <冷蔵庫に入っているコンビニ店員の写真>

- 高知県のコンビニエンスストアの店員がアイスクリームケースの中に入っている写真がインターネット上（Facebook）に公開。コンビニエンスストアはその店員を解雇し、当該店舗とのFC契約を解除し、当該店舗の休業を決定（H25. 7. 15）。



※以後、類似の事案がスーパーやレストラン等でも発生。

### <地

- 神戸市交線路に少年インターネット（H25. 8. 29）



※同時期に大阪市営地下鉄でも類似の事案が発生。



2013年、SNSを通じた不適切写真の投稿による炎上事件が増加

### <餃子店での客による不適切行為写真>

- 石川県の餃子店にて、来店した客が公序良俗に反する不適切な行為を行った上、当該画像を撮影しインターネット上（Facebook）に公開（H25. 9. 3 餃子店がその事案を公表）。
- 上記を受けて、餃子店側は客に対し業務妨害と公然わいせつ罪で告訴（H25. 9. 10）し、その後その客は逮捕（H25. 10. 7）。



### <土下座の強要・土下座写真>

- 北海道で女性が衣料品店で購入した商品を不良品と訴え、従業員に土下座させた上、その様子を撮影した写真をインターネット上（Twitter）に公開（H25. 9. 3）。
- さらに、自宅に来て謝罪するよう約束させたとして、その女性は強要の疑いで逮捕（H25. 10. 7）。



※報道資料を参考に総務省で作成

やまぐち総合教育支援センター

情報モラル

ネット上で、SNSや掲示板への投稿が多く批判を浴び、広く知れ渡る状態になることを「炎上」と呼びます。火事になぞらえた呼び名ですが、この数年ですっかり定着してしまいました。

（★）特に有名なものが、2013年夏に起きた「アイスクース事件」でしょう。

コンビニのアルバイト店員がアイスクースに入った写真をSNSに投稿したところ、瞬く間に情報が広がって大変な騒動になりました。

その後も、このような事件は何度も繰り返されています。

ときには暴力を振っている「いじめ動画」が投稿されることもあり、悪ふざけの延長では収まらない深刻な問題をはらんでいるのです。

（★）

## 2. ネット上の情報の特性（炎上のしくみ）

### （背景）

- ・ ケータイ・スマホのカメラ機能
- ・ 画像を投稿できるサービス
- ・ 情報発信に対する知識不足

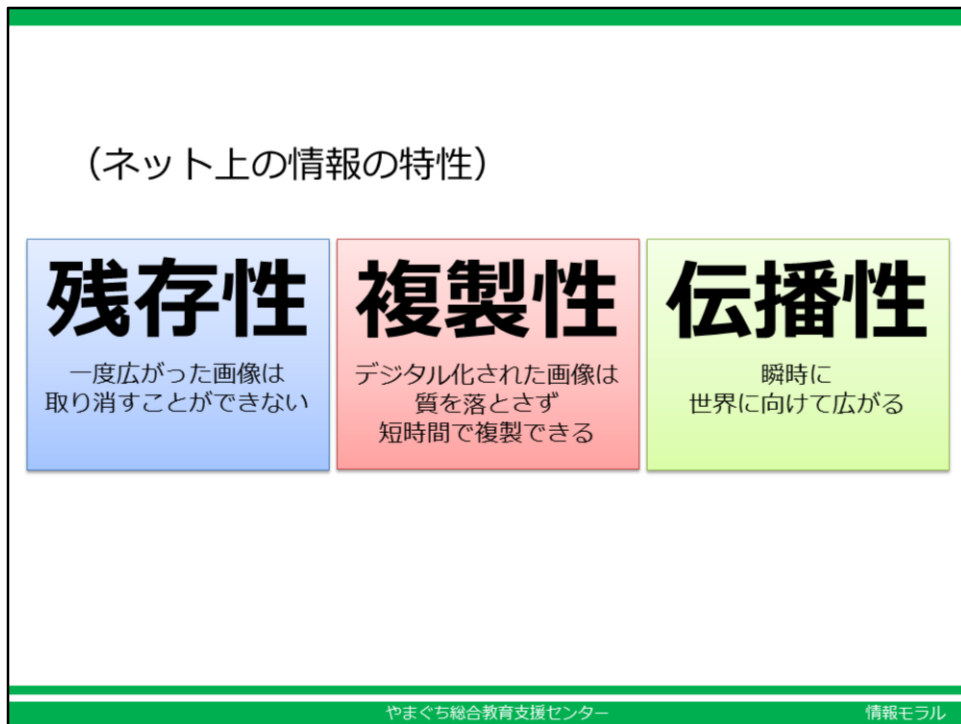


やまぐち総合教育支援センター

情報モラル

不適切な投稿によってネット上で炎上する背景には、ケータイやスマホのカメラ機能などで簡単に撮影できるような環境があり、さらに簡単に画像が投稿できるサービスがあるという情報社会の問題もありますが、情報発信に対する知識が不足していることも原因と考えられます。

（★）



また、インターネット上の情報には、

(★)「残存性」(＝一度広がった画像は取り消すことができない)

(★)「複製性」(＝デジタル化された画像は質を落とさず短時間で複製できる)

(★)「伝播性」(＝瞬時に世界に向けて広がる)といった特性があります。

ネット上では、投稿内容のコピー(複製)が次々と生まれていくため、元の投稿を削除しても事態を止めることはできません。普段は友達しか注目していないような投稿でも、偶然見かけた誰かが拡散を始めるだけで、雪だるま式に問題が大きくなってしまうのです。

(★)

### 3. 個人情報の特定

- ・ 位置情報から
- ・ 投稿された写真から
- ・ プロフィールから
- ・ 過去の投稿から
- ・ 他のサイトから
- ・ フォロワー、友達から



これらの情報を組み合わせることで

個人情報が特定され、  
ネット上にさらされる。

炎上の恐ろしい点は、その過程で個人情報が特定され、ネットに残り続けるということです。

位置情報や投稿された写真、過去の投稿などを組み合わせることによって、個人情報が特定され、ネット上にさらされてしまいます。

さらに、本人だけでなく、家族や学校の情報も暴かれてしまいます。

つまり、炎上は本人だけの問題ではなく、周囲にも多大な影響を与えてしまうのです。

(★)

#### 4. 不適切な投稿が将来に与える影響

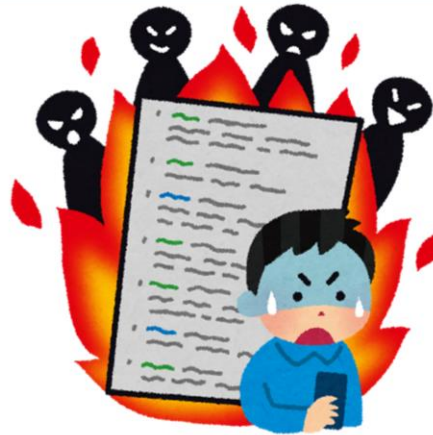
## 一生苦しむことになる

賠償金

進学

就職

結婚



やまぐち総合教育支援センター

情報モラル

不適切な投稿によってネットに残った情報は、その後の人生にも暗い影を落とします。その投稿によって発生した損害に対する賠償金の問題はもとより、進学、就職、結婚など、人生の大事なときにネガティブな判断を受けることがあるからです。

また、ネットの情報を消し尽くすのは不可能ですので、生涯にわたってその事実は残り続けます。このことを、消すのが困難な入れ墨にたとえて、デジタルタトゥーと言います。

特に個人が特定されている場合、名前で検索するだけで簡単に辿り着いてしまうため、大変なハンデを背負い続けることになります。（デジタルタトゥーとして一生苦しむことになります。）

（★）

## 5. 指導のポイント

- ・ ネットを通じたやりとりは、誰でも見ることができる
- ・ ネットの情報は残り続け、消すことができない
- ・ ひとたび炎上を起こすと、人生に取り返しのつかない影響を与える



文部科学省  
スマホ時代のキミたちへ  
～1日中、スマホやネット  
ばかりになってない?～  
(高校生用)(2016年版)

やまぐち総合教育支援センター

情報モラル

炎上が起きるたび、多くの人を感じる疑問が「批判されるのが当然のことを、なぜわざわざ投稿するのか?」ということでしょう。

これは、「モラル」の問題もありますが、自分の投稿が「公開」されているという実感に乏しいのではないかと、という意見があります。つまり、本人としては仲間内にだけ見せているつもりなのです。

スマホ時代になって、SNSへの投稿も「アプリ」を通じて行うようになり、「閉じた世界」に見えがちなことも、その原因かもしれません。

いずれにせよ、

(★)「ネットを通じたやりとりは、誰でも見ることができる」「ネットの情報は残り続け、消すことができない」「ひとたび炎上を起こすと、人生に取り返しのつかない影響を与える」この3点は、どんなに強調してもし過ぎるということはないでしょう。

子どもたちは、頭では分かっているが「実際に自分の身に降りかかる」ことをうまく想像できない場合があります。

たった1枚の写真や投稿が、人生を変えてしまう・・・このことを粘り強く伝えることが大切だと思います。

(★)



2部では、不適切な投稿を防ぐために、  
情報発信するときに注意しなければならないことを考えてみましょう。

2部では、不適切な投稿を防ぐために、情報発信するときに注意しなければならないことを考えてみましょう。

(★)